

佳作

木次の桜と永井千本桜

島根県雲南市立木次小学校六年

村尾和奏

の平和に対する強い思いを引きついで、博士の桜を大切に育てています。原爆投下により荒野になった長崎で一生懸命に花を咲かせる老いた木の存在は、春に満開の桜が見られるということがどんなに幸せなことなのかを、私たちに教えてくれているようです。

私のふるさと木次町は、桜が有名です。コロナの影きょうで桜を見る人は減りましたが、それでも変わらず桜は力強く咲いてくれました。そんな桜の姿を見ると、私たちもどんな困難なことにも立ち向かう強い気持ちが大切だと思うのです。私は桜を大切に守っておられる方から、木次の桜は戦争を乗り越えてきた木であると聞いたことがあります。この木は、戦争で利用するために伐採の危機にありました。しかし、桜の世話をしていた子どもたちが戦争に行った時に、「たとえ魂となって帰ってきたとしても、自分の木が無くなっていたら悲しむだろう」と木次の人々によって守られてきたのだそうです。大変な時代と一緒に乗り越えた木次の桜は、人々の心の支えになっているのかもしれない。だから長い間、人々の手で大切に守られているのです。

私は長崎で、浦上天主堂にある「永井千本桜」を見たことがあります。この桜は、永井隆博士が原爆で焼け野原になった長崎に再び平和が訪れて、桜が満開に咲く土地になってほしいという願いをこめて植えられました。博士は病気で起き上がれなくなっても、平和を願いながら本を書き続け、そのお金で千二百本の桜の苗木を植えました。長崎の人々は博士

今、誰もが終わることを願っているロシアとウクライナの戦争。たくさんの方が命を落とす戦争が世界で再び起きています。もし、博士が生きていたら何と言われるのでしょうか。残念ながら、博士が命をかけて願った、平和が続く世界ではなくなりました。緑豊かな土地は、灰色に荒れ果てました。けれども、私たちにとって、今戦争が起きているという実感はありません。しかし、この戦争は他人事ではなく、日本もいつ巻きこまれるかわからない状況です。「戦争絶対反対」とうったえ続けた博士の言葉を、私たちは決して忘れてはいけません。今の平和なくらしを当たり前だと思わずに、博士のように、世界の平和をうったえ続けることが大切だと思います。

博士は自分の命が短いことを知っていました。だから、博士の平和へのメッセージはたくさんの方の本として残され、桜の木となって、後の時代の人にも受けつがれています。博士はなぜ長崎に桜を植えたのでしょうか。もしかすると、ふるさとの美しい桜並木を思いうかべ、その風景を長崎に作りたかったのかもしれない。私は「永井千本桜」のことを知ったことで、木次の桜のことをますますほこりに思うようになりました。長崎とは遠く離れていても、「平和を」の願いは、桜によっていつまでもつながっています。